

Tricolor

大会・公式戦結果

Top

【神奈川県社会人サッカーリーグ1部(KSL-1)】

▼第2節

vs vs フットワーククラブ 2-0○

▼第3節

vs ブレッサ相模原 0-0△

Junior Youth

【県U-15リーグ】

vs 篠原中 3-2○

小6

【全日本少年サッカー大会県大会】

(第27ブロック)

▼1回戦

vs 駒寄・滝の沢 SSS 0-3●

Papas

☆Rec

【県シニアリーグ四十雀4部】

vs dfb パフォーマーズ 0-3●

☆Comp

【県シニアリーグ四十雀2部】

vs 横浜 OB 1-0○

☆O-40

【市シニア交歓試合】

vs 神工 OB 0-1●

今、グラウンドでは・・・

Top

【県リーグ序盤戦】

県リーグ戦は第2,3節を行い、フットワークとは2-0で今季初勝利、ブレッサ相模原とは0-0で引き分けました。

フットワークとの試合では、試合開始直後の前半1分に堀田選手の豪快なFKが直接決まり、その後も試合の主導権を握り、田村監督が掲げるボールを奪うサッカーを展開できました。特に両サイドバックの新加入の相川選手と瀬田選手の高い位置で相手のサイド攻撃を阻止できたのが勝因です。

ブレッサ相模原戦では降りしきる雨の中、お互いに中盤でのボールの奪い合いが続き、特にお互いに運動量が落ちた後半

は、中盤のプレスが機能しなくなりチャンスもピンチもありましたが、お互い決定機を逃しスコアレスドローに終わりました。

相変わらず得点力不足が見られますが、フットワーク戦で2得点を決めた堀田選手のこれからの活躍に期待できそうです。ただ、対戦チームもワントップの堀田選手には厳しいマークをつけており、得点力を上げるためには、2列目の選手たちの飛び出しが重要になってきます。それと、いかに前を向いた選手にボールを持たせてかながわクラブの良い攻撃の形を作れるかが、課題でしょう。さらに試合でちょっとしたパスのタイミングのずれがあったので、今後の練習において合わせていくしかありません。

6月にも県リーグが2試合予定されています。皆様の応援をお待ちしております。

(中本 洋一)

Youth

【公式戦が目白押し】

日本 CY 関東予選が終わったことは報告済みですが、6月から12月にかけては県クラブユースリーグと県U-18リーグが同時進行。7月から8月はKCYリーグも行われます。それぞれの大会の概要を下記します。

■県クラブユースリーグ

*県内登録14のクラブチームのみによるリーグ戦

*1部:横浜 FM ユース、湘南ユース、川崎 F ユース、横浜 FC ユース、ヴェルディ相模原 ユース、OSA

*2部:栗の木、フットワーク、インフィニット相模原、かながわ、YSCC、相模原 FC、シーガルズ、綾瀬 FC

*1部6位と2部1位は自動入替、1部5位と2部2位は入替戦

*今年度はtoto助成金を利用して全試合を人工芝にて実施



■県 U-18 リーグ

*県内登録の高校とクラブ 195 チームが参加

*KS:相洋、横浜 FC ユース、三浦、鎌倉、洸野辺、向上、藤沢清流、日大藤沢

*K1:秦野、日大、座間、湘南工大付、武相、川和、弥栄、東、創学館、湘南学院、旭、慶應、厚木北、大和南、藤沢西、浅野

*K2:城山、横須賀、法政二、栗の木、西湘、光明相模原、横浜創英、平塚江南、湘南、金井、山手学院、逗葉、川崎北、百合丘、慶應湘南藤沢、ヴェルディ相模原、横浜商大、東海大相模、緑ヶ丘、光陵、保土ヶ谷、秦野総合、逗子、市ヶ尾、霧が丘、桐蔭中等、桜丘、大磯、OSA、瀬谷、上溝南、金沢総合

*K3-E グループ:慶應 B、逗葉 B、港北、翠嵐、聖光、緑園総合、かながわ、清風、磯子

*KS の優勝チームは関東プリンスリーグ(横浜 FM ユース、湘南ユース、川崎ユース、桐蔭、桐光)に昇格

*各リーグでの入替あり

*K3 リーグは 16 グループ。各グループ優勝チーム同士で抽選により一騎打ち。勝った 8 チームが K2 に自動昇格

*関東プリンスリーグからの降格チーム数により、昇格チーム数はすべて変動

■KC Y リーグ(関東クラブユースリーグ)

*関東登録の J リーグ下部組織以外のクラブによる大会。優勝チームは自動で、2 位チームは東北リーグ勝者とプレーオフののち、J ユースカップに出場

※J ユースカップ:J1・J2 ユースチームで予選を行い、16 チームが決勝トーナメントに進出。これに全国の街クラブ代表 4 チームを加えた 20 チームによるトーナメントを実施してチャンピオンを決定。昨年度関東からは、横河武蔵野と三菱養和が出場。優勝は FC 東京

*1 次予選 D グループ:かながわ、つくば FC(茨城)、インフィニット相模原、今市アルシオーネ(栃木)、FC Balzo(茨城)

*1 位は 2 次リーグ進出。2 位は C グループ 2 位と一騎打ち。勝てば 2 次リーグ進出

すべての公式戦では、原則修学旅行以外での学校行事による試合日程変更は認められません。テスト期間中に試合が入ることもありますので、日頃から勉強もしっかりしておく必要があります。サッカーに集中するとき、勉強に打ち込むとき、休むときなど、生活にメリハリをつけていきましょ

う! ダラダラは禁物です。(内田 佳彦)

Junior Youth

現在進行中の県 U-15 リーグは全 5 試合中 2 試合(vs 綾瀬 FC/篠原中)を終え、1 勝 1 分けです。去年は、グループ 1 位となり上位リーグへの入替戦に進出したこのリーグ戦。今年も現時点では、十分にそれを狙える位置にはついています。残り 3 試合(vs 戸塚中/松本中/コラソン淵野辺)、選手たちがこの状況をどう考えてどういう気持ちで臨むかが最終結果につながってくると思います。

新チームとしてスタートを切って約半年。4 月からは新 1 年生が加わり、日本クラブユース選手権を経て約 2 ヶ月が経った今、チームとしての雰囲気は良い方向に変わりつつあります。まだまだ個人差はありますが、日ごろからチーム全員が同じ方向を向いてさらなる結束をしていくことで、今年もグループ 1 位、さらには昨年果たせなかった入替戦での勝利、を実現できる可能性がでてきます。

そして、チームとして次の大きな目標である夏の「高円宮杯」を良い流れで迎えることができるよう、「今」を大切に日々取り組んでいって欲しいと思います。(二木 昭)

小 6

横浜市春季大会に始まった春の公式戦は、全日本少年サッカー大会予選の敗退により、ひとまず一段落ついたところです。

結果はみんなも知っているとおりですが、最も残念だったのは、全員が同じ方向を向いて戦うことのできなかつたゲームが何試合かあったことです。6 年生になったとは言え、全体的にまだまだ精神的な幼さが見られます。「今」を頑張ることができなければ、「次」を語ることはできません。「今」を頑張れる選手になれるよう、もう一度自分と向き合ってみてください。

プレーの面では、1vs1 という課題が浮き彫りとなりました。1vs1 はサッカーの原点です。ゲームの中では何度も出てくる局面であり、ここでの戦いに勝つことは、ゲームの主導権を握ることを意味します。逆に負ける回数が多ければ、チームとしても勝利

から遠のくことになるでしょう。玉際のプレーで負けないこと、そしてボールのない場所でも相手との駆け引きに勝つこと。この新たな課題の克服に向けて、一人ひとりがチャレンジしてくれることを期待しています。

保護者の皆様、大会期間中は側面からサポートいただきまして、誠にありがとうございました。試合会場はもちろんのこと、港北小学校にも足を運んでいただき、これからもお子様たちの成長を見守っていただければと思います。引き続きよろしくお願いたします。(鈴木 章弘)

小 5

【区リーグについて】

神奈川区リーグが開幕しました。初戦で、今年は「区リーグ優勝」「NHK 杯の出場権獲得」を目標に設定をしました。NHK 杯は、神奈川区に所属チームしている EMSC・かもめ・ダックス・かながわクラブの 4 チームの対戦成績で優勝したチームだけが出場権を獲得できます。そのため、その日の対戦相手によってはメンバーを選抜して試合に臨む可能性があることをご了承いただきたく思いますので、よろしくお願いたします。

【ゲーム中心の練習】

最近の練習ではミニゲーム・試合中心の練習を行っています。その理由として、

①部分的な練習より、本番を想定しての雰囲気やプレッシャーの中で練習が行えるのでパスやシュートの強弱やコース・パスやボールを奪うタイミング・ボールが無いときの動き方・コーチングなどを鍛えることができる。

②ゲーム形式では、絶対に勝ち・負け・引き分けになるので、試合の前・合間でミーティングの時間をとり、どうやったら点が取れるのか? どうやったら点を取られないか? を個人・チームで考えることができ、試合に勝つために 1 人 1 人に考えて実行してもらうことができる。

③ゲーム形式を通して、チームプレーの大切さ・仲間とサッカーを楽しむ、周りを見て自分で判断をする(プレー面・人間面も含めて)ということができる。

という狙いがあります。(丸山 祐人)

小 4

【楽しくない!?】

春季大会終了後、改めて基礎技術向上を目指し2人組でのトラップとヘディング、インサイド・インステップ・アウトサイドのキック、四角形のパスにドリブル、とメニュー的には何とも“つまらない”練習に取組んでします。しかも、うるさいコーチが「早く次やれーっ!!」と煽り、どうしても話がうわの空の子には「無理に参加しないでいいよ」とも言ったりしています。

【今、この時期に】

先月の記事にも書きましたが、子供たちには“真剣にサッカーに取組む”ことをベースに、今この時期に必要な技術を身につけて欲しいことから上記のような取組みや声かけをあえてしています。一生懸命やることでサッカーの楽しさを自分自身でも見つけて欲しいと思っています。もちろん、その“つまらない”メニューでサッカーが嫌いになられては本末転倒ですので、活動の最後には楽しく終われるような気遣いはこれまで通りさせていただくつもりです。(笑)(小野 津春)

小 3

【盛り上がっているのは書店だけ!?】

この一ヶ月余の間に読んだ本のタイトルを挙げてみますと、「日本サッカーが世界で勝てない本当の理由(マイコミ新書)」岡田康宏著、「考えよ！ーなぜ日本人はリスクを冒さないのか? (角川 one テーマ21)」イビチャ・オシム著、「JAPANサッカーに明日はあるか(文春文庫)」熊崎敬著、「日本人はなぜシュートを打たないのか? (アスキー新書)」湯浅健二著、「4-2-3-1サッカーを戦術から理解する(光文社新書)」杉山茂樹著、「スペイン人はなぜ小さいのにサッカーが強いのか? 日本がワールドカップで勝つためのヒント(ソフトバンク新書)」村松尚登著、「史上最強バルセロナ世界最高の育成メソッド(小学館 101新書)」ジョアン・サルバンス著など…。

いつもサッカー関連の本ばかりを読んでいるように思われそうですが、そういうわけ

ではなく、この時期に大きな書店を覗くと、特別なサッカーコーナー(?)が設けられていて、つい手が伸びてしまうということになったのです。勿論、書店に行くには読みたい本を探すという楽しみもありますが、様々な特別なコーナーが設けられていて、社会の動きや流行を感じられるという楽しみもあるのです。

話が横道に逸れましたが、サッカーコーナーにはその他にも「ワールドカップは誰のものか〜FIFAの戦略と略略〜(文春新書)」後藤健生著、「世界のサッカーの愛称の秘密〜国旗とエンブレムで読み解く〜(光文社新書)」齊藤健仁著、「サッカー日本代表システム進化論(学研新書)」西部謙司著、「マリーシア〜(駆け引き)が日本のサッカーを強くする〜(光文社新書)」戸塚啓著、「少年サッカーからW杯まで〜目からウロコのサッカー論〜(文春新書)」泉優二著など面白そうな本があり、何冊かは既に見つけてしまっています。

しかし、間もなく南アフリカ W 杯が開幕するというのに一向に盛り上がりを感じられず不満に思っているのは私だけでしょうか? 確かに最近の日本代表の戦いぶりには失望するばかりですが、世界最高峰のプレーが見られる4年に一度のチャンスです。日本代表を応援しつつ、ワールドレベルのプレーを堪能したいものです。

【考えながら走る!】

さて、こうしたサッカー関連の本のなかで印象に残っているのはやはりオシム氏の「90分間考えながら走る」ということでしょうか。そして、考える内容が大切だということです。考えることは幼いころからの習慣づけでしか身につけません。練習時はできるだけ子どもたちに自分で考えさせるようなメニューの工夫をしていますが、親御さんにも圧倒的長時間を占める普段の生活の中で、子どもたちに考えることをさせていただければと思います。

また、もうひとつオシムの言葉で印象に残っているのが「子どもたちに自由を」というものです。指導者が子どもたちをコントロールしすぎていて、自分の頭で考えるということ阻害している。日本人の子どもたちは、こういうコントロールを受けることに

よって、生まれつき持っていたはずの想像力を失ってしまうのかもしれないと述べています。

【教えるのではなく、考えさせる!】

また、岡田康宏氏の著書のなかで「教えるのではなく、考えさせる。やらせてみて、見守る」という記述がありました。練習の場面で子どもたちが自分で道を探して先に進んでいけるように、指導者は忍耐強く子どもたちの試行錯誤を見守る必要があるということです。育成年代の指導者に必要な要素は「子どもを育てる情熱があること。成長を待つ我慢ができること。成長へのヒントを与えてあげられること」であり、そこには「教える」という行為は存在しません。名将と呼ばれる人ほどサッカーを教えないのです。

【試合と乖離した練習は意味がない!】

日本人の子どもたちはテクニックは上手いが試合ではそれが発揮できない傾向があるという指摘もありました。技術練習が練習のためになってしまって実戦的でないのです。ヨーロッパでは子どもたちの練習はミニゲーム中心に行われます。更に子どもたちに11人制のサッカーをさせることはボールに触れる機会が非常に少なくなることからナンセンスとされ、8人制あるいは年齢が下がれば6~4人制が主流となっています。

4人対4人のミニゲームは実戦に近い場面が繰り返し数多く出現するということが非常に良い練習と言えるのです。

【自分の指導法を確認するために…】

こうした読書から得られるものは視野が広がったり、疑似体験ができたりと様々ありますが、やはり一番は「自らの指導法の裏付けー正しさを確認すること」にあります。考えることの習慣づけ、教えすぎないこと、実戦に近い練習など…今後も自信を持って続けていきたいと思っています。

最後に、せっかくW杯が開幕します。子どもたちには世界最高のプレーを見て、

是非真似をしてほしいと思います。あるいは憧れの選手に一步でも近づけるように練習に励んでほしいと思います。一流の選手が最初から一流であったはずがありません。目標や夢を持ってたくさんボールに触れてください。(佐藤 敏明)

小 2

いよいよ今月からワールドカップが始まります。

2年生のみんなにとっては、初めての見る人も多いと思います。

僕の記憶に残っている一番古いワールドカップは1982年のスペインワールドカップです。そのころコーチは9歳でした。今のようにテレビ放映も少なく生中継もあまりなかったと記憶しています。

スペイン大会は、あのマラドーナが初出場し、注目していたのですが、ブラジル戦で一発退場になってしまったり、そのブラジルはジーコ(元日本代表監督)をはじめとした黄金のカルテットと呼ばれたMF達をようし、その当時ではとても魅力的なサッカーをしていましたが、2次リーグ(今はありませんが)で優勝したイタリアに破れてしまったり、残念な気持ちになったこと等を今でも憶えています。

そんな9歳の時、日本がワールドカップに出場するなんてことは夢のまた夢でした。しかし、今はどうでしょう?日本はワールドカップ常連国になりつつあり、TVでもワールドカップの試合がたくさん見ることができ。いい時代になりました(笑)

サッカーが好きな君達にとっては楽しい1ヶ月となるでしょう。できれば、録画をして見て、お気に入りの選手を見つけてください。

さて、2年生の練習では今月も引き続き
■顔を上げてドリブルが出来るようになること。

■トラップがドリブルの一步目になるように技術と意識をあげること。

■体重移動をしながらでも、ボールが扱えるようになること。

■シュートに行く迄のプロセスをイメージできること。

■相手の重心を見る意識すること。

■相手の裏をかく意識をすること。

を意識した練習をしていきたいと思っています。

毎日、自分で出来るサッカー遊びをして、日曜日にあいましょう!!必ず、成果はでてくるはず。そして今以上にサッカーが楽しくなるはず!!

それと、最後に日本代表が予選突破できるようにみんなで応援しましょう!!

(益子 伸孝)

幼児・小1

4月の活動日に、4つのコーンに、カメラーン、オランダ、デンマーク、そしてニッポン(日本)の名前をつけてドリブルのトレーニングを行いました。見守るお母さん方からは「日本の対戦相手なんだって!」「へーっ、そうなんだ!」の声が出ていたようです。もちろん、幼児たちは訳がわからないといった様子でした。

私は、1966年のロンドン大会(開催国イングランドが初優勝)からワールドカップを見てきました。当時は、テレビ放送もなく、新聞とサッカーマガジンで結果を知るしか出来ません。「日本サッカー協会友の会」に入会していたこともあり、澁谷の岸記念会館(当時ここにサッカー協会がありました)で記録映画として見たことを今でも覚えています。以来、98年に日本が初出場を果たすまでの32年間は、ワールドカップは日本のサッカーとは全く無縁の、別世界のできごとでした。72年(高3生)に、「サッカーの神様ペレ」が来日した時に、「なんで部活を休むの?わざわざ国立競技場まで試合を見に行くなんて」というサッカー部の仲間達に、ペレの偉大さ(ワールドカップに3度優勝)、ワールドカップの魅力を伝え、3年生全員で(授業を早退して)観戦したこともあり。サッカー部員ですらこの程度の興味・関心ですから、それ以外の人には、、、

日本は、98年から4大会連続でワールドカップに出場となりました。日本が本大会に出るなんて夢にも思っていなかった私にとっては、日本が出場した過去3回の試合よりも、それまでの8回の大会での名選手のプレーや数々のゴールシーンの方が今も強烈な印象のまま残っています。

クラブの子供たちが、ワールドカップを見てどんな思いを抱くのか?30年後まで

思い出を持ちつづけてくれるのか?さあ、いよいよワールドカップが開幕します。日本の戦いはもちろん気になるところですが、世界最高レベルのサッカーを1ヶ月間も見ることができるとの方が何よりも楽しみです。

録画で見るが多くなると思いますが、ご家庭でも是非ともお子さんと一緒にご覧になっていただきたいと思います。グラウンドでは、「こんなプレーしていたね!」といった話を子供たちにしていきながら、サッカーは楽しい!と感じてもらえる場面をさらに提供していきたいと思っています。

(浜野 正男)

Papas

【新入部員の皆さん・検討中の皆さん】

大変嬉しいことに、新しくPapasに入部された皆さんが続いています。さらに嬉しいことに港北小のPapasを体験され入部を検討されている皆さんおられます。是非、一緒に怪我のない壮年サッカーを楽しみましょう。僭越ながら楽しんでいくためのアドバイスを少々。

まずはじめに、怪我の無いように。毎年一人二人の方が大けがをされて、手術から一月二月の入院となっています。最近ほとんど公式戦での負傷、言わば公傷ですが、かつては港北小の活動でもありました。サッカーに負傷はつきものと言ってしまえばそれまでですが、働き盛りのPapasメンバーが負傷しますと仕事にも家庭にも大きな影響を与えます。できる限りサッカーで仕事を休むことの無いようにしたいものですが、そのためにできることは限られています。まず基本的には練習も含めサッカーを楽しむ前に体調を整えること、始める前にはストレッチと共に心拍を上げることが必要です。さらに練習中であれ試合中であれ無理をしないことです。これらに共通の原因は、大変認めたくないことですが、加齢であり、予防のためにはアンチエイジング、年齢との調和ないしは抵抗が必要です。若い時、学生時代とは違うこと、年々衰えていくことを認識するとともに、衰え以上に鍛えていく、無理をしない範囲で、即ち続けられる範囲で、Papasの

活動以外でジョギング、ストレッチを続けるということが予防につながると思います。

次に、無理をしないように。前項と共通しますが、現在の港北小の Papas の活動は、かなりレベルの高い、即ち若くてサッカー経験の豊富な方が中心となっています。Papas の活動を始めたころは、Papas で初めてサッカーをするお父さんがかなりいたのですが、いつの間にか皆さんベテランになり、シニアリーグが活動の中心となり、港北小は若くて経験豊富な人が多くなってしまいました。体験中の方、新入部員の皆さん、どうかこうしたバリバリのPapasに惑わされず、マイペースで。数カ月もすれば、経験者は昔の勘を思い出し、未経験の方は体がサッカーになじんできます。無理せずマイペースで楽しんでください。

三つ目は、友達を作りましょう。かながわクラブはご存じのとおり、特定非営利活動法人であり、営利を目的とせず、より良きスポーツ環境を地域に創り出そうとしています。とりわけ Papas の活動はボランティアが基本で、提供するサービスは行き届かない所ばかりだと思います。しかし、Papas はサービスを提供する人と受ける人という関係でなく、昔の学校時代の部活動のように、部員みんなで Papas の活動を作りだしたいと考えています。こうした考え方にご理解とご協力を。メンバーはみんな仲間です。是非声を掛け合って友達なって、一緒にPapasの活動を作っていきましょう。
(茅野 英一)

ヨーガ

【メンタルヘルス】

ヨーガ療法を企業内でのストレスマネジメントに使っていただきたいと活動を続けています。しかし、なかなかうまく進まないものです。組織の命令系統内にひとりでもヨーガ療法採用に否定的な方がいると、そこで話は滞ってしまいます。いくつもの挫折の末にやっとヨーガ療法の企業内実施にたどりつきました。

実施させていただいたのは、某大手メーカー会社で、東証1部上場企業です。46名の参加でした。実施直後にアンケートをとらせていただきました。その結果、87%の方に「効果がある」と感じていただけ

たようです。「また参加したい」という方は85%、「自分でもやれそう」という方は52%。なかなか良い感じですよ。

この結果をひきさげて、先日「メンタルヘルスケア・ジャパン2010」というイベントにて講座を担当させていただきました。

このイベントは毎年開催されていて、そこには多くのメンタルヘルス関連企業が集まり展示会も催されます。その会場内で「ヨーガ療法について」の講座を行ったのです。当日まで、どんな方々が何人参加されるか全く検討が付きません。ふたを開けてみると、100名が着席できる会場はほぼ満席。まわりの雑音や座席の狭さにもかかわらず、多くの方々から良い評価をいただきました。うれしい限りです。

私のささやかな「ヨーガ療法普及プロジェクト」は牛歩ながら着実に進んでいます。

そして、進めば進むほど確かな手ごたえを感じます。(伊藤 玲子)

はない

といったところです。

でも、1と2がクリアできれば問題ないわけでも…。

今までのような高温下での試合ではないので、選手のパフォーマンスには期待が持てるわけで…。

今回パスしても次はまた南半球で、治安もそんなにいいわけではないだろうし…。ブラジルもパスすると、その次はたぶんヨーロッパだろうからかなり楽しみになるけれど、その頃には気力体力の衰えも気になり始めるだろうし…。

ん？なんか行く気になってる？

あれ？(内田 佳彦)

たわごと 理事長の戯言

【南アフリカ】

ドイツ W 杯観戦記の最後に、よし、決めた！南アフリカに行くぞ！チケットが取れて、休みが取れて、一緒に行ってくれる仲間がいたら…。などと書いてもう4年が経ってしまいました。

で、結局どうでしょう？

チケット→たぶん取れるでしょう。

休み→なんとかなるでしょう。

仲間→ん？どうかな？周りの人は全員が声をそろえて、「南アはとっても危険だからやめときなさい」とか「近くのコンビニに行くまでに2回は強盗に襲われるぞ」などと言ひ、口が裂けても「一緒に行こう」などとは言い出せません。

実は年が明けたころから「今年は南ア行くの？」とちらほら聞かれるようになってきて、その都度「行きません」とこたえてきました。

行かない理由として、

1. 宿泊場所の確保に自信がない
2. 宿舎からスタジアムまでの足の確保に自信がない
3. 最悪でも野営できる治安状態と季節で

夏休みの活動予定

クラス	曜日	時間帯	場所	遠征・大会・合宿	その他	
幼児・小1	日	9:30-11:00	港北小	なし	<ul style="list-style-type: none"> ■ 小学生海洋キャンプ (NPO 湘南ベルマーレと共催) 7/24(土)~7/29(木) / 5泊6日 YMCA 阿南国際海洋センター (徳島県阿南市) 小3以上 ■ ファミリーカヌー教室(日帰り) 8月上旬 清川村宮ヶ瀬湖カヌー場 	
小2	日	9:30-11:00	港北小			
小3	日	11:00-12:30	港北小	未定		
	水・金	16:40-18:00	大口台小			
小4	日	12:30-14:00	港北小			
	水・金	16:40-18:00	大口台小			
小5	日	14:00-15:30	港北小			
	火・木	16:00-17:20	港北小			
小6	日	15:30-17:00	港北小			
	火・木	16:00-17:20	港北小			
Junior Youth	火・木・土	<火・木> 9:00-15:00の間 <土> 9:00-17:00の間	港北小 三ッ池 他		<ul style="list-style-type: none"> ■ 合宿 7月下旬/3泊4日(予定) 中伊豆ワイナリーヒル ■ 遠征 日帰りで行う可能性あり ■ 高円宮杯県予選 8/21(土)~ 	<ul style="list-style-type: none"> ■ 水・金・日 曜日 試合の場合あり
Youth	火・木・土	18:00以降 (ナイター)	新羽中 浦島丘中 他		<ul style="list-style-type: none"> ■ 合宿・遠征なし ■ 県CYリーグ/KCYリーグ/ 県U-18リーグ 	<ul style="list-style-type: none"> ■ 水・金・日 曜日 試合の場合あり
Papas	日	8:00-9:30	港北小	なし		

【注意】

- ①これは、現時点での予定ですので、時間帯や場所は変更になる場合があります。あくまでもひとつの目安とお考え下さい。
- ②8月のお盆時期【8/9(月)~8/16(月)】は、活動及び事務局はお休みとなります。
- ③上記以外の曜日に試合が入ることもあります。